

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	作曲&アレンジ	授業形態/必・選	講義	必修
	作曲・コライト		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数 5単位
科目設置学科コース	ギターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当 ☐
担当講師 実務経歴	実務経験14年 サポート・ギタリストとして活動。 その他、ギタートレーナー、レコーディング、楽曲制作、編曲、音楽専門学校講師など、活動は多岐に渡る。				
授業概要					
一人で行う作曲と、多人数で行う作曲の違いや、自分に足りない物を補い、色々なジャンルや作曲手法を学ぶ。 他学生とのコミュニケーションを第一に一年次に習得した基礎知識、音楽理論を用いて作曲、編曲をする技術を学ぶ。					
到達目標					
ギタリストとしての視点から、作曲・編曲ができるように知識を習得し、コミュニケーションを取りながらオリジナル楽曲を制作できるようにし、自分を客観視し他学生との違い、またイニシアチブの握り方や妥協点の探り合いなど、一般社会人としての教養も身に着ける。					
授業計画・内容					
【前期】 1～7回目	基礎音楽理論 ・1年次に修得した基礎音楽理論の復習 ・ダイアトニックコード、トリックマイナースケール、セカンダリードミナント、モーダルインターチェンジ等 ・インターバルの理解とコードの成り立ち				
【前期】 8～13回目	コード進行先行の作曲法/曲のセクション(リハーサルマーク)でよく使われる作曲法 ・既存曲のコード進行のコピーや考察、アナライズ ・既存曲のコード進行に、違うメロディーを作り作曲する方法を習得 ・ジャンル特融の有名なコード進行の理解 ・イントロ～Aメロ～Bメロ～Cメロ～Dメロ～等、よくある曲の成り立ちからコード進行を読み解く				
【前期】 14～19回目	メロディー先行の作曲法/曲のセクション(リハーサルマーク)でよく使われる作曲法 ・既存曲のメロディーコピー(単旋律&コーラスライン含む) ・既存曲のメロディーに対して違うコード進行 ・ジャンル別のリズムの違いを用いて編曲する方法を習得 ・イントロ～Aメロ～Bメロ～Cメロ～Dメロ～等、よくある曲の成り立ちからメロディーを読み解く				
【前期試験】 20回目	前期授業の作曲/編曲に必要な知識 ・個人での作曲とコライトの違い、またそれぞれの利点や考察 ・コミュニケーションと他人への興味を作曲/編曲をコライトを通じて学ぶ				
【後期】 21～25回目	前期復習～基礎音楽理論、コード/メロディー/リズム/セクションの進行法の重要性 ・コード先行作曲/編曲、メロディー先行作曲/編曲、リズム先行作曲/編曲、それぞれの理解 ・コライトを行う上のメリットやデメリットの復習				
【後期】 26～30回目	編曲アプローチの習得法Ⅰ ・ダイアトニック外のコードの理解と使い方 ・ノン・ダイアトニックコード(セカンダリードミナント)を用いた編曲 ・インターバルから読み取る「どうしてそう聞こえるのか？」等の考察				
【後期】 31～35回目	編曲アプローチの習得法Ⅱ ・ダイアトニック外のコードの理解と使い方 ・ノン・ダイアトニックコード(モーダルインターチェンジ)を用いた編曲 ・インターバルから読み取る「どうしてそう聞こえるのか？」等の考察				
【後期試験】 36回目	後期授業の作曲/編曲に必要な知識 ・セカンダリードミナント/モーダルインターチェンジの理解 ・個人での作曲とコライトの違い、またそれぞれの利点や考察 ・コミュニケーションと他人への興味を作曲/編曲をコライトを通じて学ぶ				
【後期】 37～39回目	ギタリスト特有の曲の作り方 ・リズムやキー、変拍子等を利用し、オリジナリティあるギターの作曲法を習得 ・コード進行に対して、ギターリフを作る方法を習得 ・コード進行に対してメロディー(ソロ)の作成法				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	ギターが弾ける…だけではできる事の幅がとても狭くなります。また学んだ知識や技術は表現できなければ意味がありません。自分というカラーをアウトプットできる楽曲や他人の作り方等をスポンジの様に吸収し、曲を通じてギターリフやギターソロを作れるように頑張しましょう。				
使用教科書	ギターコースベーシック1&2適宜PDF資料を配布、授業時ホワイトボードに記載するので、要筆記用具、五線紙ノート、タブレット端末				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ギターアドバンス	授業形態/必・選	実習	必修
	ギターインプロヴァイズ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ギターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験22年 ESPミュージカルアカデミー/ギターコース97年度卒。ギタリストとしてロックバンドを渡り歩き、様々なミュージシャンと交流し、サポートギター、セッション、レコーディング等の活動を経て、現在バンドに所属し活動中。自身が学んだ事、経験として得た知識を取り入れ実技授業を担当。				
授業概要					
ポップスやロックミュージックで使用頻度の高いスケール(音階)を中心に、スケールポジションの確認と音程を把握する。又、コードとの関係性を理解しながら、コード進行の中でのアプローチを組み立てられるスキルを身に着ける。					
到達目標					
アドリブソロやフレーズ、指定されたテーマフレーズやソロへの対応力の習得。 ・メトロノームを使い音符の長さを意識しながら各スケールの音程を身に着けていく。 ・指板上のブロックポジショニングから縦の移動を意識したフレーズ作りを意識。 ・弾き覚えのあるフレーズからよりコードの響きを意識した音選びを考える。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	1年次に学習したスケールポジションと理論的な解釈の確認。(メジャー系) ・メジャースケール ・メジャーペンタトニックスケール ・コード進行に合わせた実演と応用。				
【前期】 6～10回目	1年次に学習したスケールポジションと理論的な解釈の確認(マイナー系) ・ナチュラルマイナースケール ・マイナーペンタトニックスケール ・コード進行に合わせた実演と応用。				
【前期】 11～15回目	ブルース系(ドミナントコード含む)スケール ・メジャーブルース ・マイナーブルース ・コードポジションを意識したフレーズの組み立て方。				
【前期】 16～20回目 (前期試験)	マイナースケール3種(ポジション練習を始めとし、それぞれのスケールの特徴を捉えて弾き分ける。) ・ナチュラルマイナースケール ・ハーモニックマイナースケール ・メロディックマイナースケール				
【後期】 21～25回目	ダイアトニックコードと機能について ・指板上でのコードトーンの確認とテンションノート。 ・各テンションコードの押え方とルール。 ・モードスケールその1(ミクソリディアン・ドリアンモード)				
【後期】 26～30回目	転調に対応したフレーズを考える(ディミニッシュ・ホールトーン含む) ・並行調での弾き分け方。 ・同主調での弾き分け方。 ・移調に対応するためには。				
【後期】 31～35回目	モードスケールその2 ・フリジアン ・リディアン ・それぞれのスケールがマッチするコード進行を考える。				
【後期】 36～39回目 (後期試験)	総集編 ・自分がプレーする上で、最も得意なスケールを持つ。 ・コード進行を様々な視点から分析し、最もマッチしたスケールを割り当て弾く。 ・自分が弾いたフレーズを説明出来るのかを検証。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	音楽に一番必要なのは、感性だと思います。音から得たイメージを大切に、それを表現するために必要な弾き方や知識を吸収する。覚えたからと言っても実際にはフレーズが弾けるとも限らない難しさがあります。スケールポジションと感性を融合し、絶対に忘れない弾き方を考えていきましょう！				
使用教科書	ギターコースベーシック1&2の適宜PDF資料を配布。参考音源と楽曲の使用あり。				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブルⅡ（前期/後期）	授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンブルⅡ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	76回(152単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当	㊦	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験27年 1983年にメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動を続け、ロードレーサーのテーマソングを歌う、デビューしたバンドの再結成全国ツアーを三年連続で行うなど、精力的に活動中。				
授業概要					
既成曲または学生の制作したオリジナル曲を題材に、互いにコミュニケーションをとりながら周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成（MCや曲間の繋ぎ）、アンサンブルに必要な要素（テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス）の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑥課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。					
到達目標					
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。					
授業計画・内容					
【前期】 1～38回目	アンサンブルとは何か ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識（五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど）の復習、確認。 課題曲①～④ ・既成楽曲（課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲）またはオリジナル曲を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ（キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など）の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータルプロデュース。 アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。 アンサンブルフェスティバルへ向けて ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける（目や耳を傾ける）余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたリハーサル（MCや曲間の流れの確認）を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ（アンサンブルフェスティバルの舞台）に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。				
【前期】 39～40回目	半期のまとめ ・「前期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
【後期】 41～74回目	アンサンブルとは何か ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識（五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど）の復習、確認。 課題曲⑤～⑥ ・既成楽曲（課題曲⑤ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲⑥アップテンポ8ビート⇒課題曲⑦ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲⑧8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲）またはオリジナル曲を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ（キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など）の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータルプロデュース。 アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。 アンサンブルフェスティバルへ向けて ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける（目や耳を傾ける）余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたリハーサル（MCや曲間の流れの確認）を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ（アンサンブルフェスティバルの舞台）に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。				
【後期】 75～76回目	半期のまとめ ・「後期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）				
学生へのメッセージ	楽器やシールド・チューナー・エフェクターは自身の物を持ち込みましょう！※外部では持ち込みが常識です。1クール間（課題曲が切り替わるまで）はレンタル可。一人が休むと授業の進捗に支障が出ると同時に、最も大切な信用を失ってしまいます。リハや本番に穴を開けると同じと考え、どうしても休む際は学生間で事情を伝えるなどバンドメンバーの一員としての自覚と責任を持ちましょう。 今後の人生を豊かにする為にも他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。 生音の体験やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場ですので、楽しみながら皆で盛り上げていきましょう！				
使用教科書	担当教員または学生の制作した譜面				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択DAWⅡ(前期/後期)	授業形態/必・選	講義	必修
	DAWⅡ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数 5単位
科目設置学科コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース・ギターヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当 ☐
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また、アイドルや声優の楽曲や CMのサウンドロゴの作編曲。MIX MASTERINGまで自身で行い、ライブではマネージャーとしての活動も行っている。				
授業概要					
DAW(mac&Logic)でのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。					
到達目標					
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるように)なる知識、実践方法を学ぶ。他コースと関わり、合同での「作曲」や「レコーディング」の実現。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、Logic Pro Xの操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 ・簡単なループを組み合わせた制作法を学ぶ				
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解				
【前期】 11～20回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節+α)の課題曲の作成				
【前期】 21回目～22回目 (前期試験)	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習				
【後期】 23回目～34回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ 各楽器にフォーカスを合わせたオリジナル曲の合同作成 ・1コーラス(フルコーラス)を目標にオリジナル曲の合同作成				
【後期】 35回目～36回目	ツーマックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)				
【後期】 37回目～38回目 (後期試験)	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	今や楽器を持つ人(ヴォーカル含む)に必要な現代音楽の作成ツールであるDAWを知ること、使うことはとても大事です。バンドだけ…演奏だけ…ではなく、「創る楽しみ」も同時に学び、今後の時代の発展に合わせた作曲やサウンドデザインを心がけ、オリジナリティあふれる作品を創ってください。				
使用教科書	各講師オリジナルの教材の使用				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ギターベーシックⅡ		授業形態/必・選	実習	必修
	ギターベーシックⅡ-A			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ギターコース、サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験34年。1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、様々なアーティストのバックバンド等のサポートやレコーディングに参加。					
授業概要						
1年次の教材である「Guitar course Basic1」の続編である「Guitar course Basic2」を中心に、基礎力を徹底に身に付ける実技授業。						
到達目標						
1年次で学んだ基礎的知識、技術の習得の徹底。それをもとに実践的な応用力を習得するノウハウを身に付ける事を目的とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	メジャースケールとインターヴァル ・1年次に学んだインターヴァルの理解向上を、メジャースケールを使いトレーニング。 ・併せて指板上の音の理解向上。 ・複数ポジションでトレーニングにより指板上での音程、音名の理解を深める。					
【前期】 7～12回目	トライアドとインターヴァル ・スケール上で理解したインターヴァルを、4種類のトライアド上でも理解を深めるトレーニング。 ・6弦、5弦、4限ルートポジション。 ・ルート音の変化による音名の変化の対応力を養うトレーニング。					
【前期】 13～17回目	テトラッドとインターヴァル ・トライアドで理解したインターヴァルを、テトラッドに広げてトレーニング。 ・6弦、5弦、4限ルートポジション。 ・ルート音の変化による音名の変化の対応力を養うトレーニング。					
【前期】 18～22回目 (前期試験)	3種類のトリックマイナースケール(ナチュラル、ハーモニック、メロディック) ・3種類のトリックマイナースケールのインターヴァル、音名を確認しながらトレーニング。 ・複数ポジションでのトレーニング。					
【後期】 23～27回目	テンションコード ・コードトーンとテンション ・テンションの種類(ナチュラルテンション、オルタードテンションなど)。					
【後期】 28～32回目	チャーチモードとBluenote Scale ・各モードスケールのインターヴァルの理解。 ・ダイアトニックコードとの関係とアプローチの実践。 ・Blues進行及びBluenoteとBluenote Scaleについて					
【後期】 33～37回目	ドミナント7thスケール ・メジャートライアドを含むコードにに解決するドミナント7thスケール(Mixolydian Scale, Lydian b 7Scale) ・マイナートライアドを含むコードに解決するドミナント7thスケール(Harmonic Minor Perfect 5th Below, AlteredScale) ・その他のドミナント7thスケール(whole tone scale, Harmonic minor perfect 5th below)					
【後期】 38～40回目 (後期試験)	アヴェイラブルノートスケール (今までの総まとめ) ・あらゆるコードに対するスケールの選び方、アプローチの方法。 ・循環コード、典型的なコードパターンを使った実践。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	難しい事も多いと思いますが、応用力を身に付けるには何が必要かを常に考えながら、積極的に取り組んでいきましょう。理解が深まれば今よりもっと音楽が楽しくなります。そして将来必ず役に立ちます。					
使用教科書	学内オリジナル教材「Guitar course Basic2」PDFを使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ギターベーシックⅡ	授業形態/必・選	実習	必修
	ギターベーシックⅡ-B		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ギターヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務歴26年 サポートやスタジオワークを経て、ジャズギタリストとなる。一方で、古の時代に一世を風靡し絶滅した日本特有の無声映画の演奏スタイルを三十余年のあいだ研究し復活させ、世界的に評価される。日本古来の再現演奏ができる唯一の音楽家として欧米に招聘され、2024年春はスミソニアン博物館を含める全米4都市(ニューヨーク/ワシントンDC/シカゴ/ロサンジェルス)で計18公演のツアーを行う。				
授業概要					
ギターヴォーカルとしてのギターに対する知識／ギター演奏技術力の向上					
到達目標					
歌唱時の安定した演奏能力の獲得やコードの響きを理解し、自分の声を混ぜる事の両立。また、ギタリストとギターヴォーカルの違いをよく理解し、自分の声に合うコードの研究や苦手なコードの押さえ方のトレーニングを行い、苦手を得意にする					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	和声および音階の復習 ・C Major Keyおよびその平行調であるA minor Keyのダイアトニックコードの復習、同主調に置き換え習得 ・アペイラブルノートスケールとの関連性を解いて行く				
【前期】 6～10回目	鍵盤楽器とは異なるギターの和声の理解(同一音名)とバックイングトレーニング ・一般的なコードフォームから歌に混ぜるのに必要な最小限の省略コードを導き出す能力を身につける。 (※2声、3声、4声に止め、ルートも含む) ・バックイングについては休符の存在をしっかりと意識して、発音しない部分の重要性 (※8ビート&16ビート)				
【前期】 11～15回目	ギターヴォーカルに必要な省略コードの展開形の理解やバックイング時のリズム ・ギターヴォーカルに必要なルート以外の音が低音になる場合の和声の響きの豊かさを感じるトレーニング ・学生各々に例題曲を提示してもらい、過去の指導を生かしたバックイングリズムの構築				
【前期】 16～22回目 (前期試験)	前期試験対策 ・リズム⇒三連符／シャッフルを含めたバックイングのエクササイズ ・三連符／シャッフル(得手不得手がはっきり出るので学生に応じたレッスン内容) ・上記1回～15回に行ったヴォーカル時のギターバックイングトレーニングの総復習				
【後期】 21～25回目	ハーモニックマイナーパーフェクト5thビロウの使い方 ・特定のコード進行時に変化するフリジアンドミナント(HmP5 ↓)の習得 ※音階上の音の変化も提示し一般的に使われる特定のコード進行時のみ(IIm7(b5)→V7)に限定、またコードトーンの変化に注目を促す				
【後期】 26～30回目	ジャズやラテン音楽に用いられるリズムとコード進行の代表例 ・ジャズ特有のダイアトニックコードのトレーニング ・フィンガーピッキングスタイルの習得				
【後期】 31～35回目	ボサノヴァ／サンバのリズムとコード進行の代表例 ・ラテンのポピュラー楽曲を使用しフィンガーピッキングの習得 ・リズムの根源であるマシーンのリズムの教示 ・講師指定の数曲のジャズ／ラテンの楽曲トレーニング				
【後期】 36～40回目 (後期試験)	講師指定の数曲のジャズ／ラテンの楽曲トレーニングと総復習 ・上記1回～35回までの総復習 ・卒業時の今後の活動のアプローチの相談、アドバイス				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	二年生になると、自分が日頃行わない演奏方法やジャンルが出てきます。しかしたとえ興味がないものでも出来ない事でも「知らない」と「知ってる」では大きく違います。私はよく「神降臨は無い」とお話しします。身につけた以上のものが突然降って湧くことは無いと言う意味です。それは無意識下のどこかで得たものであり、頭の引き出しの奥から出てきたものです。それらは絶えない好奇心がある人にだけ訪れます。その好奇心さえあれば、いつまでも柔軟でクリエイティブな音楽人でいられます。				
使用教科書	ギターコースベーシック1&2適宜PDF資料を配布、授業時ホワイトボードに記載するので、要筆記用具、五線紙ノート、タブレット端末				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ギターテクニク講座	授業形態/必・選	講義	必修
	ギタリスト研究		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数 5単位
科目設置学科コース	ギターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 自身のバンドでギター・ヴォーカルとして活動後、サポートギタリストとして、ライブ、レコーディング、講師、メジャーアーティストへの演奏指導、MVへの出演、音楽誌の新機材検証企画でのレコーディングなど様々な活動を展開。				
授業概要					
エレキギター黎明期から現代まで、英米のギタリストを中心に音楽史を探求する。 それぞれの時代において、各音楽ジャンルが発生した経緯や、社会的・歴史的な背景などを学び、サウンドや機材についての解説も行う。					
到達目標					
年代や各ジャンルにおける代表的なアーティスト、作品、ギタリストを把握し、自らのプレイスタイルの確立に活用する。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	1950年代 ・ロックンロール黎明期の代表的なアーティストを学ぶ。 ・ロックンロール誕生に繋がった、ブルース、R&B、ゴスペルなどの代表的なアーティストを学ぶ。				
【前期】 6～10回目	1960年代 ・1960年代の代表的なアーティストを学ぶ。 ・ブルース・ロックとリヴァプール・サウンドの誕生。				
【前期】 11～15回目	・ブリティッシュ・インヴェイジョンの代表的なバンドを学ぶ。 ・サイケデリック、アートロックなどロックの多様化と社会運動との結びつき。				
【前期】 16～20回目 (前期試験)	1970年代 ・1970年代の代表的なアーティストを学ぶ。 ・ハード・ロックの確立と黄金期。・ロックの大衆化。				
【後期】 21～25回目	・プログレッシヴ・ロック、グラム・ロックの代表的なアーティストを学ぶ。 ・ジャズ・フュージョン。・パンク・ロックとニューウェイヴ。・AORの出現。				
【後期】 26～30回目	1980年代 ・1980年代の代表的なアーティストを学ぶ。 ・ヘヴィ・メタル・ブーム。・オルタナティブ・ロックの出現。				
【後期】 31～35回目	1990年代 ・1990年代の代表的なアーティストを学ぶ。 ・グランジ・ブーム。・UKロック・ブーム。・コアパンク(メロコア)・ブーム。				
【後期】 36～39回目 (後期試験)	2000年代～現代 ・2000年代～の代表的なアーティストを学ぶ。・ラップ、メタル、メロコアなどのラウド・ロック全盛期。 ・インターネット、SNSを活動の中心としたアーティストの出現。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	現代の音楽において、過去の作品から影響を受けていない音楽は無いと言っていいでしょう。あなたの好きなギタリストも誰かの影響を受けているはずです。それはサウンドそのものだけではなく、ファッションやアティテュードも含まれます。歴史を学び、取り入れ、自らのギタープレイに活かしてください。				
使用教科書	担当講師によるオリジナル教材				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ギターテクニック講座	授業形態/必・選	講義	必修
	ギターテクニクス		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数 5単位
科目設置学科コース	ギターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当 ☐
担当講師 実務経歴	実務経験14年 自身の活動として楽曲配信やソロアルバムを発売、Youtubeにおいてはレッスン動画や業界の知識を配信等、積極的に活動。またエンジニアとしても活動しておりミックスやマスタリング、そして作曲等も全て自主でこなし、楽曲提供や数々の著名なヴォーカリストと共演。				
授業概要					
多岐に渡るギターの演奏法の違いの理解と、個性を磨く為のギターテクニクを知ること。独学で学んできた間違った練習法や習得技術の矯正を行い、より高いレベルのギターのテクニクを身に着け、自分の楽曲や今後の仕事に活かす。					
到達目標					
日々行う基本的なエレキギター練習法(メソッド)の確立と個性を磨く為の演奏技術の習得。各種機材(ギター本体の知識を含む)の知識、使いこなすスキルの修得やオリジナリティある演奏知識と演奏技術の修得。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	日々行う基本的なエレキギターメソッドⅠ ・右手の耐久値を上げる練習(ダウンピッキング) ・右手の耐久値を上げる練習(オルタネイトピッキング) ・持続力の向上を図る多数のリズムフレーズ				
【前期】 6～10回目	日々行う基本的なエレキギターメソッドⅡ ・アウツサイドピッキング、インサイドピッキングの理解と実践 ・アクセントの重要性と練習フレーズ(3連/16分/5連/6連/7連/32分) ・左手の耐久値の向上				
【前期】 11～15回目	日々行う基本的なエレキギターメソッドⅢ ・アップピッキングの重要性と常に意識するリズムの捉え方 ・出音を第一に考え、ノイズを常に減らす意識とその対策法 ・オルタネイトピッキングの応用、エコノミーピッキングの初歩からくる独学の矯正 ・リズムを意識したスウィープピッキング法へのアプローチ				
【前期】 16～20回目 (前期試験)	課題曲の演奏による「日々行う基本的なエレキギターメソッド」の反復練習 ・多数のピッキング法からなる課題曲へのチャレンジ ※ダウンピッキング/オルタネイト/エコノミー/スウィープピッキング等				
【後期】 21～25回目	課題曲による「曲」へのアプローチ法 ・ダイアトニック外のコードによるモーダルインターチェンジ、セカンダリドミナントを含む楽曲へのアプローチ(フレーズ構築法やボイシング、指板上の音、度数の把握) ・自分の楽曲への応用やその方法、解釈等踏まえてリスナーにどう聞こえるか?の考察				
【後期】 26～30回目	エレキギターの飛び道具テクニックの練習法 ・タッピング奏法/スウィープ奏法とその概要と理解 ・チキンピッキング、弦飛び奏法(スキッピング)の概要と理解				
【後期】 31～35回目	多数の有名曲を使つての指弾きテクニック ・ピックを使わない「ソロギター」としてのテクニックの確立 ・単音・コードだけではなく、コードとメロディの両方を奏でる楽器としての可能性を探る				
【後期】 36～39回目 (後期試験)	レコーディング時にプロが意識して弾くメソッド ・リズム/ノイズ軽減法/ピッチやアーティキュレーション/最終出音のチェック等の「自分の責任を持って、出したい音が出ているか?」のハイレベルエクササイズ ・自分の考える「出したい音」を表現する為の意識トレーニング ・課題曲を使って2年次の総復習/卒業してからも意識するべき精神論と音楽の付き合い方のアドバイス				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	プロの現場で使われる音はアマチュアとどう違う音なのか?を正しく理解し「音に責任を持つ」事が大事。フレーズが出来た時の達成感は今後の自分のアーティスト業やサポート業の糧となる達成感であり、その積み重ねが将来の自分を作るという事を念頭に置き、難しい程上達すると考えて頑張つて取り組んで下さい。				
使用教科書	担当講師によるオリジナル教材				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ギターパフォーマンス	授業形態/必・選	実習	必修
	ギターパフォーマンスⅡ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ギターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験14年 サポート・ギタリストとして活動。 その他、ギタートレーナー、レコーディング、楽曲制作、編曲、音楽専門学校講師など、活動は多岐に渡る。				

授業概要
ギターパフォーマンスクリニック(ステージイベント)に向けてライブパフォーマンスに特化した実技を行います。リズム、ソロ、サウンドメイキング、ステージでの立ち振る舞い、衣装や自己プロデュースにおける楽曲決めや集中力の使い方をブラッシュアップ。
到達目標
校内のみにならず、ライブハウスやイベントにて高い水準のパフォーマンスが可能な実力の習得。 自己プロデュースによる「得意・不得意」の理解、苦手を得意に変え、精神と技量共にギターリストとしてのポテンシャルの向上を図る。

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目 個人の前期での目標設定 ・演奏楽曲決めやパフォーマンスに必要な要素の学習 ・客観視されたチューニングの重要性、クリックに合わせた練習の必要性 ・過去に行われたギターパフォーマンス(ステージイベント)にて注意、学習すべきポイントの整理。(服装、音色、音質、セッティングの速さ等、動画視聴)	
【前期】 5～10回目 イベントライブ(ギターパフォーマンスクリニック)の演奏楽曲決めと対策 ・自己分析から曲決め、ジャンル、テンポ、演奏スタイル、使用アンプを含むを決定する。 ・自分で購入したエフェクター使い方や種類を理解して、自身の楽曲を更に彩らせる為の研究。 ・購入したエフェクターが無い場合の対処法 ・ライブハウスやスタジオでよく目にするアンプとの使い方、サウンドメイキング法の伝授	
【前期】 11～16回目 イベントの反省～ファイナルイベント「プレイヤーズコンテスト(予選)」への対策 ・イベントライブ(ギターパフォーマンスクリニック)の反省会や今後への課題、見直し ・ステージパフォーマンスにおいての見せ方以外に、曲での見せ方聞かせ方の理解(曲の際立つ部分等、理由や理論を混ぜて解析) ・音源に合わせてコードの習得、インプロヴァイズ(アドリブ)の練習。	
【前期】 17～21回目 (前期試験) 楽曲に必要な主要スケールと実際のイベントを想定した緊張感の中で演奏する。 ・実際に動画を録り、「自分を客観視する力」を養う ・演奏楽曲に使われるメジャー＆マイナーペンタトニックスケール全ポジションの理解(反復) ・自身のギターパフォーマンスにて演奏する曲の披露、講師から学生へのアドバイス等	
【後期】 23～30回目 個人の後期での目標設定 ・自由曲の演奏楽曲決めやパフォーマンスに必要な要素の学習 ・再度確認すべき、客観視されたチューニングの重要性、クリックに合わせた練習の必要性 ・過去に行われたギターパフォーマンス(ステージイベント)にて注意、学習すべきポイントの整理。(服装、音色、音質、セッティングの速さ等、動画視聴)	
【後期】 31～38回目 楽曲に必要な各種スケールの練習 ・後期発表で使う楽曲のメジャースケール、マイナースケール全ポジションの理解、各ブロック毎に弾く練習。リズム、コードストローク練習 ・楽曲にでる特殊なコードへの対策(ダイアトニック外のコード等)	
【後期】 39～40回目 (後期試験) 授業内にて実践発表と卒業後の対策の開始 ・実際に自身の楽曲に合わせて授業で演奏し、それを動画に撮影して全員で改善点や良い点をそれぞれ探しライブに向けてのクオリティアップ ・実際に講師の前で演奏してもらい、2年間で学んだものすべて(演奏や自己プロデュース能力等)を披露	
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	「ステージの上では常に人に見られている」ステージに立った自分が格好良いのかどうかオリジナルティや、その先の仕事に繋がります。2年生なので卒業も控えており、自分をアピールしながら、しっかり演奏できるのか普段から意識をしましょう。
使用教科書	担当講師によるオリジナル教材

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ミュージシャンズセオリー	授業形態/必・選	講義	必修
	イヤートレーニング&スコア		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数 5単位
科目設置学科コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験34年。1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、様々なアーティストのバックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
相対音感及び読譜、PCでの楽譜作成ソフト『Finale』による譜面作成についての講義。					
到達目標					
単音、和音におけるインターバルの理解と相対音感の習得。楽譜作成ソフト『Finale』によるマスター譜、パート譜の作成技術の習得。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	旋律聴音(半音、全音、メジャースケール上のインターヴァル)読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識の復習、確認 五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど。				
【前期】 6～10回目	旋律聴音(3種類のトリックマイナースケール上のインターヴァル) 楽譜作成ソフト『Finale』の基礎操作方法。 組段、レイアウトの調整、反復記号、各種記号の配置、コードの打ち込み方				
【前期】 11～15回目	旋律聴音(その他のインターヴァル①) 『Finale』を使ったマスター譜の作成(コーダ切れなし) リピートマークのみを使ったアンサンブル課題曲の写譜				
【前期】 16～20回目 (前期試験)	旋律聴音(その他のインターヴァル②) 『Finale』を使ったマスター譜の作成(コーダ切れあり) ダカーボ、ダルセーニョを使ったアンサンブル課題曲の写譜				
【後期】 21～25回目	和音聴音(トライアド4種類 Maj、Min、Aug、Dim) 楽譜の作成、読譜に必要な基礎知識の復習、確認(音符、休符の種類、各種記号など) 各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 26～30回目	和音聴音(テトラッド Maj7、6th、7th) 『Finale』の基礎操作方法(テンキーを使った音符のステップ入力) 各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 31～35回目	和音聴音(テトラッド m6th、m7th) 『Finale』でのパート譜(ギター、ベース、ドラム)の作成(基礎編) 各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 36～40回目 (後期試験)	和音聴音(テトラッド aug7th、m7th b5th、Dim7th) 『Finale』でのパート譜、TAB譜の作成(応用編) 各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	演奏、作編曲において、相対音感の習得、また読譜、スコアの作成は必須のスキルです。アンサンブルの授業、各自のバンド活動等とリンクさせて意欲的に取り組みましょう。				
使用教科書	担当講師によるオリジナル教材				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アーティスト実地演習Ⅱ	授業形態 / 必・選	演習	必修
	アーティスト実地演習Ⅱ		年次	2年次	
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(32単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 企画、立案、進行等、インプット・アウトプット能力の向上。					

授業計画・内容	
1回目～5回目	ESP学園主催イベント①～⑤
6回目～7回目	コースイベント①②
8回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅡ(前期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボードⅡ(前期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
4～6回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
7～9回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
10～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～19回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅡ(後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボードⅡ(後期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	キーボードの機能について学ぶ。スケール練習を中心に練習。 ダイアトニックコードについて知り、それを課題曲演奏に活かす。
4～6回目	スケール練習の継続、リズムやテンポを変えた練習。 コードの転回形を学ぶ。
7～9回目	リズムパターンのはっきりしたベースラインを演奏する。 あわせて右手でコード演奏を行い、形にする。
10～12回目	課題曲をもとに反復練習、必要に応じて講師による講評
13～16回目	ピアノの特性を活かしたイントロ演奏。コードをアルペジオに変えた演奏。
17～19回目	アルペジオ演奏を通じて、運指のトレーニング。 一人で左右とも異なった動きができるよう反復練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。